

## 自己評価報告書

平成 23 年 4 月 18 日現在

機関番号：30103  
 研究種目：基盤研究 B  
 研究期間：2008 年度～2011 年度  
 課題番号：20330076  
 研究課題名（和文） 戦略的協働の実現と波及のダイナミズム  
 —知識ネットワークキング・パースペクティブ  
 研究課題名（英文） Formation and Spillover of Strategic Collaboration  
 研究代表者 小島 廣光（KOJIMA HIROMITSU）  
 研究者番号：80093029

研究分野：社会科学  
 科研費の分科・細目：経営学・経営学  
 キーワード：戦略的協働，実現，波及，NPO，政府

## 1. 研究計画の概要

戦略的協働の実現と波及のダイナミズムを理論的・実証的に解明し、最終的に戦略的協働に関する包括的・統合的な理論モデルの構築と戦略的協働に対する実践的指針の提示を目指している。

## 2. 研究の進捗状況

まず、事例の選択に先立ち、戦略的協働が定義された。次に、この定義に合致する協働プロジェクトが探索された。その際、協働プロジェクトの課題分野がある程度の多様性を有するよう配慮された。この結果、次の 7 つの協働プロジェクトが発見された。北海道 NPO バンク、ジャパン・プラットフォーム、霧多布湿原トラスト、パシフィック・ミュージック・フェスティバル、グリーンフリーズ・キャンペーン、人道目的の地雷除去支援の会、北海道グリーンファンドの 7 つである。

本研究の独自の理論的枠組である協働の窓モデルにもとづいて、協働プロジェクトの事例研究を試みるためには、異なったタイプの膨大なデータが収集される必要がある。そこで本研究では、多様なデータが複数の源泉から収集された。

第 1 に、協働の窓モデルの構成要素に関連する種々の 2 次データが収集された。具体的には、協働プロジェクトに関する新聞記事、雑誌記事、研究論文、書籍、リーフレット、各組織のウェブページなどが活用された。

第 2 に、収集された 2 次データを利用して、協働の窓モデルにもとづき 1 次ドラフト（事例のアウトライン）が作成された。

第 3 に、1 次ドラフトの作成に際して、上述の 2 次データだけでは不明確な点が析出された。具体的には、参加者や協働アクティビ

ストが、いかなる意図にもとづいて当該行動をとったのか、あるいは、何が想定外の（意図せざる）事象であったのか等がリストアップされた。

第 4 に、これら不明な点に関して、協働アクティビストであると想定される複数の参加者（以下、被調査者）に対して、聴取調査が実施された。

第 5 に、聴取調査の結果にもとづいて、2 次ドラフトが作成された。

本年度当初予定していた質問票調査は、本研究には必ずしも適合的ではないことが判明した。そこで、事例研究の一層の進化を目指した。

## 3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

## 4. 今後の研究の推進方策

残りの研究を進め、最終報告書を作成する。

## 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 4 件）

① 菅原浩信「商店街組織と NPO のパートナーシップ」、『日本経営診断学会論集』10 巻, pp. 108-114, 2011 年.

② 菅原浩信「第 3 セクター鉄道のマネジメントに関する実証研究」、『開発論集』（北海学園大学開発研究所）85 巻, pp.213-329, 2010 年.

③ 菅原浩信「コミュニティの活性化に寄与するグラスルーツ型組織のマネジメント」、『日

本経営診断学会論集』 9巻, pp.5-10, 2010年。

④坂川裕司「小売フォーマット開発の分析枠組」『経済學研究』60巻4号, pp.61-76, 2011年。

〔学会発表〕(計1件)

①宇田忠司「フリーランスの活動とコンテンツ産業の構造」マネジメント学会, 広島大学, 2010年7月31日。

〔図書〕(計0件)

〔その他〕